

経営比較分析表（令和3年度決算）

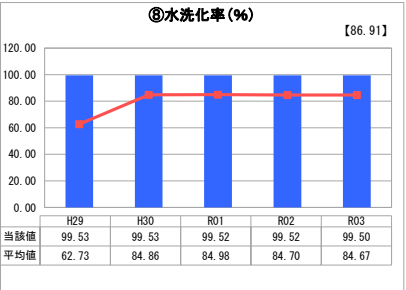
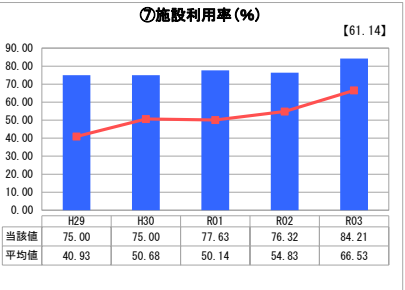
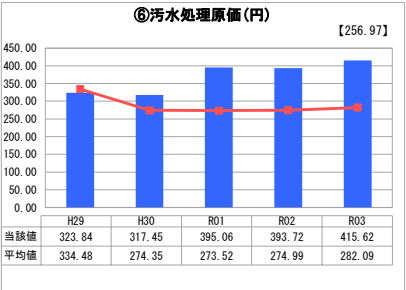
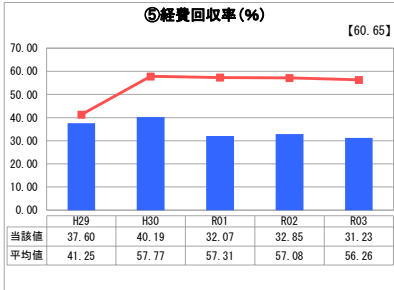
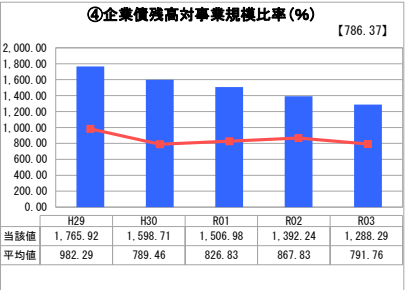
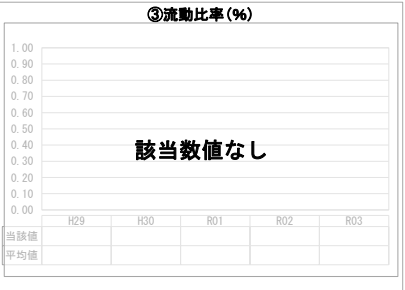
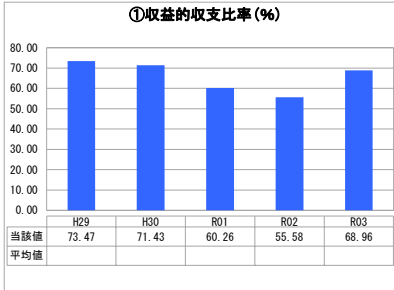
北海道 剣淵町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	6.95	93.15	3,610

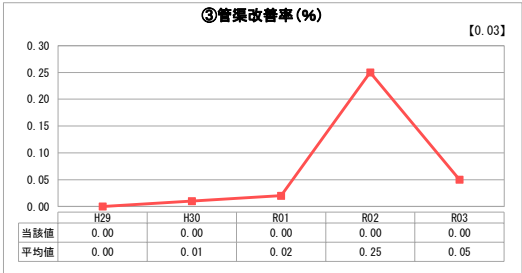
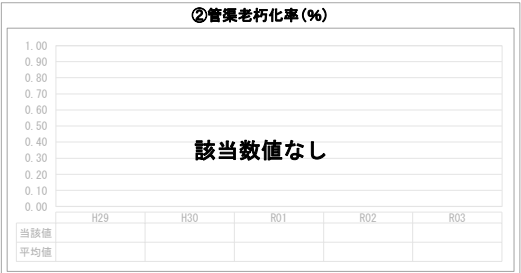
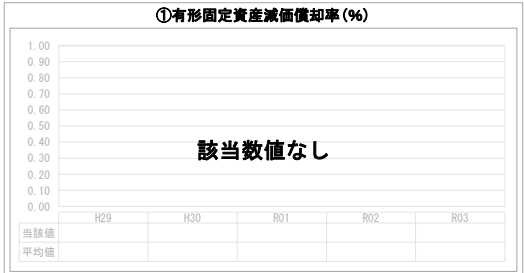
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,950	130.99	22.52
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
201	0.07	2,871.43

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町下水道事業（農業集落排水事業）については、表①「収益的収支比率」で分かるように単年度収支は赤字となっている。令和3年度については法適用移行に伴う打ち切り決算による繰越金により増加している。今後は、老朽化施設の改築更新事業が見込まれるため、より一層の経営改善を図る必要がある。表④「企業債残高対事業規模比率」については、起債の償還が進んでいることから減少傾向にある。表⑤「経費回収率」については、処理区域内人口の減少、施設委託費の増加もあり、類似団体の平均値を下回っており今後は更なる経営改善が必要と考えられる。表⑥「汚水処理原価」については、有収率が高いこともあり平均並となっている。表⑦「施設利用率」と表⑧「水洗化率」については平均を上回る値を維持している。今後についても数値が減少しないように状況の把握と効率的な汚水処理を継続するよう努めなければならない。

2. 老朽化の状況について

管渠布設から19年経過していないが、下水道管渠清掃、本管内部カメラ調査、公共樹状況調査を実施し、定期的に状況を把握する必要がある。また、処理施設老朽化から施設の故障修繕が増加傾向にあり今後計画的な更新が必要である。

全体総括

料金収入確保のため、平成28年度に5%増の料金改定を実施したが、処理人口が少ない区域のため、人口の増減の影響を受けやすい環境にある。今後は、料金改定の検討、整備計画策定による適切な設備更新、コストの縮減、平準化に努めながらも今後の事業計画について見直しを考える必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。